

日本原子力研究開発機構
理事長 岡崎 俊雄 殿

日本原子力研究開発機構労働組合
中央執行委員長 岩井 孝

財務契約系情報システム、特にGLOVIAに対する意見書

現在原子力機構ではGLOVIAと呼ばれる財務契約オンラインシステムを導入している。研究・技術系の現場では特に物品購入契約手続きがようやくネットワーク経由でできるようになり、従来に比べて利便性において改善されると当初は期待もされた。しかし、導入から1年を経過したが、このシステムには「使いづらいし、研究者にとっては負担が増えただけである」という意見が多く、問題の多いシステムとなってしまっている。

原研労組はこのような状況を重視し、以下に全体的、個別の問題点をそれぞれ指摘する。機構にはこれらの問題点を検討し、今後の改善を早急に行うことを希望する。

全体的問題

- (1)GLOVIA の入力処理システムの利便性に著しく問題があること
- (2)運用の面で効率化の方向に逆行していること
- (3)その GLOVIA を利用する研究・技術の現場に煩雑な事務処理を強いていること

機構全体が機能的に業務を遂行するために、事務処理の合理化・効率化は極めて重要な要素である。今回のオンラインシステム導入は情報の集約の一元化の効果を狙ったものとしてその趣旨は理解できる。GLOVIA システムが独立行政法人の財務処理に対応できるシステムということも、導入を検討した要素の一つであろう。しかし実際の運用を見ると、インターフェイス(ユーザーの使い勝手)の悪さ、利用環境の制限、ペーパーレス化からの逆行など、効率化とはほど遠い状況である。

特に契約請求に関しては、事務専門職者ではなく、研究者・技術者自身が直接 GLOVIA を利用しているのが現状である。各部署に事務スタッフを十分配置できない現状では、結局研究・技術の現場が煩雑な事務処理を強いられてしまう。少なくとも契約請求に関しては、全職員が使うことを想定してシステムを導入・構築するべきである。

本機構は研究・開発を目的とする組織である。研究・技術に関わるものはその研究・開発活動業務に集中できる環境が与えられることが、優れた成果を出すためには不可欠であるはずである。にもかかわらず、現在の GLOVIA を用いた財務契約システムは研究・技術の現場に過度の事務処理負担を強いる結果となっている。

研究機関における研究の能力・質の低下は、その機関の必要性・存続にも関わる本質的な問題で

ある。そのような問題にならないよう、早急に研究・技術の現場の負担を軽減するための改善を進めることを希望する。

個別の問題点

インターフェイス（ユーザの使い勝手）

- ・ 入力の流れが直感的なものとはかけ離れている
 1. メニュー構成が分かりにくい。
 2. 「確定」ボタンの意味が不明瞭（保存をするのか、作業環境を作成をするのかなど統一性がない）。
 3. 伝票作成で複数ページを行ったり来たりする手間を必要とする。
 4. ダミーコード入力の無駄。
 5. 仕様の欄が小さすぎる（いちいち別添えを作らなければならない）。例えば簡単なカタログ品を購入する際、5点程度までは記入できるようにする等。等。
上記のような不合理なインターフェイスを改善するべき。
- ・ 多機能性による不便性
GLOVIA は会計処理システムとして多数に機能を備えており、いろいろな処理が出来ることを想定しているが、それがむしろ扱いにくくさせている。多くの利用者にとって不必要な項目は見えなくするか、入力を受け付けないようにするなどといったシステム（例えば詳細 / 簡易モード切替機能の導入）にするなどの改善をするべき。

利用環境の制限化

- ・ 利用環境をウィンドウズ+エクセル+アクティブX利用と制限していること
研究の現場では UNIX や Macintosh を研究上の必要性のため利用する例がかなりある。GLOVIA は UNIX や Macintosh では利用できない。事務処理のために別に上記の環境を用意しなければならないというのは相当の負担である。プラットフォームによらないオンラインシステムとするべき。

ペーパーレスに未対応

- ・ 電子情報とした伝票をそれと並行してプリントアウトしている
 - (1) 現状は伝票を電子情報として作成したのに紙情報として関係部署を回し印鑑を押すことになっている。電子承認システムを導入するか、紙出力がやむをえなければ出来るだけ承認作業終了後の最終段階で済むように工夫するべき（総務課で現在実施中の平成18年度環境配慮活動にも関連）。
 - (2) 出力ファイルはPDFファイルなど、簡単に変更できないようにするべき（Excelファイルは変更が容易に出来てしまう）。

アカウント数の制限

- ・ IDがグループ辺り3から4程度しか割り当てていない
使用者は事務職員のみではなく、実際には研究・技術系各人が物品購入契約手続きに使っているのが実態である。IDは全員に配布（職員番号で利用可能）にする。そして全員配布

に伴い、各人の環境設定を可能にし、利便性を高める。

動作速度の問題

- ・ 各項目入力における応答の遅さ

すべての入力を終了し、最後に処理を確定させる段階での応答に時間がかかるのはある程度やむを得ないが、途中の各項目入力の段階で、「異様に」と表現せざるを得ない程応答が遅い。親サーバに対するデータ検索・参照手法が著しく非効率であることが原因と推察できるが、いずれにせよ不便を感じるほど途中の処理が遅いのであれば、データの整合性・過不足等のチェックは最後の処理確定の段階のみで行う等の対応が必要であろう。機構における例として挙げると、外部発表票システムでは、最後に処理を確定させる段階で整合性等のチェックをしている。参考にされたい。

例えば契約請求の場合、入力データがそろっていれば、1件2分程度で完了に至らなければ利便性の点で不可、とするとといったように、目標を定めた改善をして欲しい。

先日、担当部署の財務部においてGLOVIA利用について利用者アンケート調査を実施し、現在解析中とのことである。そのような動きは多いに歓迎するものである。しかしそのアンケート調査の設問は、システムの利用頻度、動作速度のみとなっており、本意見書で挙げるような問題点を軽視していないか大いに危惧している。重ねて、本機構における業務の効率化の観点からの改善を希望する。

なお、現在、経営企画部にいる業務効率化アンケートや、総務部による環境配慮活動など、運営管理部門における業務環境改善に対する対応を進めている。その問題意識および行動は評価する。
以上